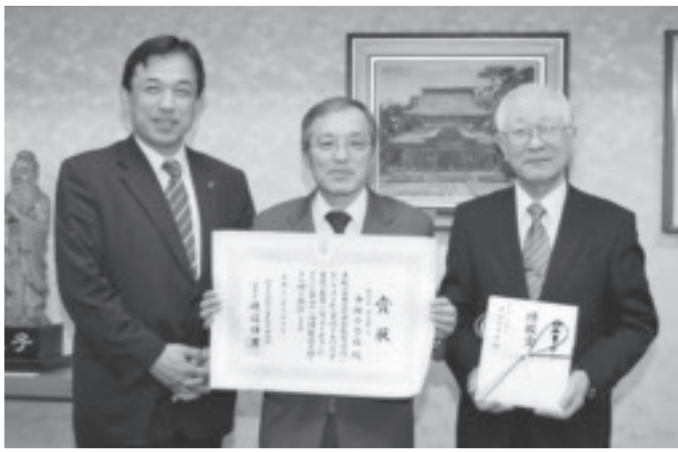


# まちの話題



優れた伝統文化の継承で郷土を愛する子どもの育成が評価

中部小学校が博報賞受賞

中部小（塚本泰徳校長：196人）が、児童の豊かな人間性育成に貢献している学校・団体を顕彰する『第41回博報賞』（日本文化理解教育部門）を受賞しました。

地域の伝統文化の継承と地域を愛する子どもの育成に対して受賞したものです。多久聖廟を持つことの縁で、胡弓奏者の趙国良氏より腰鼓200個が寄贈され、平成3年度より市内の小中学校で腰鼓に取り組んでいましたが、平成10年から多久聖廟を校区内に持つ中部小学校に集約。現在では春と秋の聖廟釈菜で腰鼓を披露しています。多久の誇りでもある多久聖廟を核に、地域の伝統文化を継承することは、多久の伝統文化に誇りを持つとともに、歴史や伝統がある多久町や学校を自慢に思う児童を育てています。

演技を行うのは5年生と6年生。6年生が5年生へ伝承する形で練習を行い、伝統を受け継いでいます。入学当時から5年生にならないと踊れない腰鼓を「自分たちも早く踊ってみたい」と、きらびやかな衣装を着てダイナミックな踊りを踊る上級生にあこがれを持ち、自分たちの出番が来るのを楽しみにしています。

また、戦前まで釈菜で歌われ、その後途絶えていた『参列生徒の唱歌』は聖廟創建300年祭（平成20年）を契機に復活し、それ以後の釈菜で1～4年生と多久町老人クラブで歌われています。春と秋の聖



▲勇壮な腰鼓を踊る5・6年生。  
平成22年は多久まつりでも披露しました



▲秋季釈菜で『参列生徒の唱歌』を合唱する1～4年生と多久町老人クラブのみなさん

廟釈菜では、幼児の『幼児太鼓』や『花棒舞』、小学生は『腰鼓』、中学生は『釈菜の舞』、大人は『獅子舞』、老人会は小学生と一緒に『参列生徒の唱歌』があり、世代を超えた多久町民の多くが参加し盛り上げ、活動の継承によりふるさと多久町を愛する心情を育むことができ、この賞の受賞となりました。

塚本校長は「中部小だけでなく、地域で貰った賞だと思っている。地域の人に支えられていることに感謝し、伝統の重みを引き継いでいきたい」と話されました。

## 柴田健二さん 金メダルおめでとう！ 日本身体障害者 水泳選手権大会

東京で行われた第27回日本身体障害者水泳選手権大会で、柴田健二さん（東多久町・写真中央）が100m自由形と100m背泳ぎに出場。両種目で大会新記録を達成し、金メダルに輝きました。記録は自由形が1分19秒41、背泳ぎ1分36秒10。

目標のパラリンピック出場の夢に向かって、体力づくりや練習をかかさないう柴田さんの今後の活躍を期待します。



11/28

## 多久読書会 社団法人 読書推進運動協議会表彰

多久読書会（田中郁子代表）は、社団法人読書推進運動協議会表彰を受けました。

昭和58年発足の多久読書会は、多年にわたり読書会を作り育て読書運動の推進に尽くしてきました。毎月定例の読書会を開き、感想を話し合い、意見交換を行っています。

会員のみなさんは「高齢になったが昔ながらの文化が懐かしくこれからも続けていきたい」と話し受賞を喜んでいます。



11/27